



故 清水喜八郎先生

公益社団法人日本化学療法学会名誉会員

清水喜八郎先生　ご略歴

【経歴】

昭和 27 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業
昭和 49 年 4 月 筑波大学医学部臨床系内科助教授
昭和 52 年 4 月 東京女子医科大学内科教授・中央検査部部長
平成 5 年 4 月 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター客員教授
社団法人北里研究所 顧問
平成 5 年 5 月 東京女子医科大学名誉教授

【日本化学療法学会における活動】

昭和 41 年～平成 10 年 日本化学療法学会評議員
昭和 48 年～昭和 60 年 日本化学療法学会理事
昭和 54 年 第 26 回東日本支部総会会長
昭和 55 年～昭和 58 年 日本化学療法学会東日本支部長
昭和 55 年～昭和 59 年 日本化学療法学会雑誌編集委員長
昭和 57 年 第 30 回日本化学療法学会総会会長
昭和 61 年～昭和 62 年 日本化学療法学会監事
昭和 62 年～平成 3 年 日本化学療法学会理事長
平成 5 年 志賀潔・秦佐八郎記念賞 受賞

【その他学会等における活動】

昭和 58 年～昭和 60 年 国際化学療法学会理事
昭和 60 年～昭和 62 年 国際化学療法学会副理事長
昭和 62 年～平成元年 第 15 回国際化学療法学会副会長
平成 2 年～平成 6 年 日本臨床微生物学会理事長
平成 3 年～平成 6 年 日本感染症学会理事長
平成 4 年～平成 7 年 日本環境感染学会理事長
平成 5 年～平成 16 年 日本抗生物質学術協議会(現・日本感染症医薬品協会)理事長

清水喜八郎先生追悼文

清水喜八郎東京女子医科大学名誉教授が2025年3月16日97歳でご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

先生は1952年に東京大学医学部医学科を卒業され、1953年に東京大学医学部第一内科に入局され、1974年には筑波大学医学部臨床系内科助教授、1977年に東京女子医科大学内科教授・中央検査部部长に就任され、感染症・化学療法分野の研究・教育・診療に従事されました。本学会にては評議員、理事、監事として活躍されるとともに、1980年から1984年に学会誌編集委員長、東日本支部長、1987年から1991年は理事長として本学会の発展に貢献されました。この時期はわが国で目覚ましい数の抗菌薬の開発が行われ、現在でも世界で使用されている重要な抗菌薬の開発を日本化学療法学会が中心となって行っていました。抗菌薬の開発では主に抗菌薬の薬物動態に関する研究を主導されました。先生は日本化学療法学会だけでなく、当時、日本が最も必要とした分野である日本環境感染学会、日本臨床微生物学会の設立にも尽力され、両学会の理事長、また日本感染症学会の理事長としても活躍されました。

1981年に清水喜八郎先生が東京女子医科大学の第二病院から本院に移られて、本院における感染症の研究・教育・診療を開始されました。私は当時総合内科の血液内科分野に属していましたが、感染症への興味が強く、1984年より、先生のご指導を受けることとなりました。厳しいながらも、心温かく、色々なことを教えて頂きました。健康者や疾患患者における抗菌薬の薬物動態の研究では、抗菌薬を投与して、時間ごとに血液や尿を採取して、血中濃度を測定しますが、重症熱傷患者の検体ではあるはずの抗菌薬が測定限界以下のことがありました。病態によってこれ程薬物動態が異なるのかとの驚きでした。

先生は感染症・化学療法分野の将来についても常に思いをはせておられました。2002年の第50回日本化学療法学会では特別企画「学会50年の歩みと今後の展望」の座談会が熊澤浄一先生の司会で行われ、学会のそれまでの発展等について数々の話題があげられました。当時の本学会会員数の漸減についても取り上げられ、先生は30代、40代の若い会員を増やすこと、薬学系の会員が3%程度なので、増やせる余地があるのではないかと提言をされておられました。私が理事長であった、2008年に抗菌化学療法認定薬剤師制度が発足し、多くの若い、薬学系の会員に参加頂き、その後の本学会の発展があったことは先生のその思いがあつてこそと考えております。また先生は感染症を専門とする若手医師の育成にも心を配られ、その後、わが国の学会で中心となり活躍された若手医師のフランスのモンペリエや英国のケンブリッジへの海外研修を後押しされました。私も英国のケンブリッジでの短期講習に参加し、感染症学の神髄を学ばせて頂きました。私の海外留学先についてもお世話を頂き、留学先の米国ウィスコンシン・マジソンのW.A.Craig先生の研究室をわざわざ訪れて頂き、マウスを使ったPK/PDの研究をご覧になり、しっかりとやるようにと励まして頂きました。

先生は大変な食通であり、海外では多くのレストランで食事をご一緒させて頂きましたが、日本食レストランでは大きなミル貝などを注文され、日本食は海外、フランス料理は日本国内が一番うまいとおっしゃっていたのを今でも思い出します。

先生は、女性に優しく、大変おしゃれで、服装には常に気を使われており、時々蝶ネクタイをされて出勤されることもありました。また交友関係が広く、元読売巨人軍のオーナーであられた渡辺恒雄氏と旧知の仲であり、時々食事会の席で巨人軍情報を披露され、楽しく過ごさせて頂きました。先生の趣味はゴルフでありました。大学生時代は野球部で、キャッチャーと伺っておりますが、豪快なドライバーショットが目に見えます。最近は少しゴルフをやめるのが早かったかなとおっしゃっていました。最近まで、杖は使われますが、地下鉄に乗られたりして、元気にされており、突然の訃報に驚いております。

清水喜八郎先生、長い間ご指導を頂きありがとうございます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2025年7月

東京女子医科大学名誉教授 戸塚恭一